ピカパチ日記☆

會田　雅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ピカパチ日記☆

【Ｎコード】
Ｎ１０４３Ｚ

【作者名】
會田　雅

【あらすじ】
この世界には私達の知られざる出来事や人物が結構いたりする。
たとえば、ポケモン。
あいつら実はゲームだけのキャラじゃなくて実際に居る連中を新しく見つける度にゲームを通して紹介してるだけ…とか？
今観測されているのは５０１匹。
ゲームと違って此処にいるのはポケモンの能力を持った人間。
世界に４７８人居る能力者は人間に混じって普通に生活をしていた。

・・・というか會田が変身ヒーローもの好きすぎて作った願望の副産物。
ポケモン化して戦う少し身近なヒーローです。

一日目（前書き）

出だしが完璧に一昔前のジャンプのラブコメみてぇだ…

一日目

寝ぼけ眼で重い自転車をこぐのが俺の平日の日課。
正直体力的に死にそうだと思ったことは多々あるが、今はもう慣れた。
結構体力が付いたのかもしれない。

えー、かいつまんで説明しますと
俺、登校中。

自転車が俺の体重以上の負荷を俺の足に強制する理由は一つ。

「ピカ、遅い」

後ろに俺のマドンナを乗せてるからさ！

胸のちょうどしたあたりの髪を肩口らへんでツインテールにしてるの小柄な眼鏡っ子！
名前は木崎胡桃（きざき クルミ）
ちょいと毒舌だけど、その辺はご愛敬…
というよりもその態度が俺に対してだけというのがかなりクるんだぜ！
なんつーかさ、俺だけのクルミって感じがもう最高なんだよ

「ニヤけないでよ、気持ち悪い」

「わ、悪かったな…」

ついほころんでしまっていたようだ。

俺の片思いは周知の事実だが、あえて誰も触れていないらしい。

微妙に腹立つぜ？その気遣い

失恋決定みたいにするなよ！

希望はまだあるっつーの！

校門が見えたら近くの駐輪場に自転車を止め、木崎と一緒にくぐる。

隣を歩く木崎が何とも言えないくらい可愛らしい。

頭一つ分の身長差が最高だ。

「よっ、鋼太」

「おぅ、涛二か」

校舎へ歩く途中、唐突に声を掛けてきたのは山内涛二（やまうち トウジ）

俺のクラスメイトで、ロングセラーを誇るゲーム、【ポケットモン

スター】ヲタク。

他の連中にはポケフリークなんて呼ばれてる。

木崎にかまけすぎて忘れていたが、俺は雷鋼太(いかずちウタ)。

この真砂学園(マサゴがくえん)で一番喧嘩が弱い男！！！（自称）

つまり無害なので友達になってくれる女の子募集中だッ！

「なぁなぁ、お前知ってるか？今月中旬あたりにポケモンの新しいシリーズ出るんだとよ。たしか…」

「ポケットモンスター　ルビー・サファイアだろ？」

「そうそう！新しいポケモンとか出まくるらしいぜ！マジで楽しみー」

「・・・だってよ、木ざk」

あれ？いない…

「この年でポケモソフリークとかw」

「ないわーw」

「雷君とか、顔だけ見ればイケメンなのにねー」

「えー、箏羽ちゃんあーゆーのが好みなの？ちょい引く」

「クルミちゃんは近すぎて知らないだけだって！」

一日目（後書き）

雷君とクルミちゃんのビジュアルは授業中に書いた落書きだったりする。

一日目、学校の後（前書き）

なんか…
とりあえず任天堂の方々すみません！
この作品はフィクションでぇぇぇぇぇす！
俺、ポケモンなんて神ゲーつくりだせちゃうゲームフリークの方々
とかめっさ尊敬してますから～！

一日目、学校の後

「おいおいおーい！何地味に傷つくようなことを聞こえるように会話してんだお前ら！」

「ごめん、つい本音が」

「胡桃ちゃん、けっこうきついと思うよそれ」

「鋼太にはこれで十分」

木崎の毒舌にいたって常識的な言葉を返しているこの子は水戸部琴羽（みとべ　ことハ）。

少し長めの髪の毛をいつもピンク色の髪飾りでハーフアップにしていて、木崎から見ても結構可愛いらしい。

もっとも木崎は「可愛い子ほど苛めたくなっちゃうんだよ。あの子、からかい甲斐があるんだ」

なんてＳッ気満々な発言をしてたから結構要注意だ。

「鋼太はなんでこれでも胡桃ちゃんなんだよ？もしかして…Ｍッ気あったりするのか？」

「ダァホ！お前は木崎の魅力がわかってねーだけだっつの」

そのまま俺たちは他愛のない話をしながらいつもどおり教室まで歩いた。

その後普通に授業を受けて普通に高校生活を送る。

俺も木崎も至って普通の高校生だ。

ー学校ではな。

下校中、俺のカバンに入っている携帯端末が振動する。

「司令…か」

周りで木崎以外誰も見ていないことを確認してからそれを取り出す。
ボタンを押すと振動は止み、地図が表示される。

場所を確認すると、俺たちはそこへ走った。

実はこの世界、ポケモンが実在するんだなんて言ったらお前ら信じるか？
信じる信じないはいいとして、まぁいるんだわ。
ただし、あの可愛い生き物じゃなくてその能力を持っちまった奴がな。
【世界政府】の末端、表立っては任天堂という名の会社が持つ一部組織、ゲームフリークはそいつらの存在を観測・研究し、可愛らしい生き物としてキャラクター化してゲームを売っている。
それがポケットモンスター。
新シリーズが紹介され、出される新しいポケモンとはすなわち新しく発見された能力者のデフォルメ系なのだ。
その能力を危険視した【世界政府】は発見された能力者たちに役割を与えた。
彼らの情報を公開しない代わりに各々が生んでいる地域の治安を守る裏方として活躍しろとのこと。
つまり、秘密警察だ。

ー俺はピカチュウ、その秘密警察の一員だ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1043z/

ピカパチ日記☆

2012年1月3日01時46分発行